

東京2025デフリンピック 全国気運醸成事業の取り組み



TOKYO 2025
25TH SUMMER DEAFLYMPICS

一般財団法人全日本ろうあ連盟デフリンピック運営委員会

全日本ろうあ連盟 気運醸成の活動

気運醸成の取り組み

- 2024年度は全国への気運醸成として、『デフリンピック フェスティバル』を全国9カ所で実施
- 実施にあたり、大規模集客施設での実施や、自治体または民間の大規模集客イベントに組み入れる形で実施
- 内容は、市民や子どもを対象に東京2025大会やデフスポーツ・デフアスリートのPR、きこえないことや手話言語・国際手話体験等
- 10月27日時点で、福岡市、青森市、横浜市、徳島市、富士見市の5カ所で開催済。残り4カ所(東京都、京都市、石川県、愛知県)も10月～来年2月にかけて実施予定

『東京2025デフリンピック』を九州から盛り上げていこう！

■ 2024年9月8日



約400人

手話言語の国際デー2024 in あおもり

■ 2024年9月23日 (月)



約500人

\\ みんなでもりあがろう // 東京2025デフリンピック応援イベント！ in 横浜

■ 2024年9月28日 (土)



約350人

デフリンピックフェスティバルinとくしま あさいとスポーツフェスタ2024

■ 2024年10月14日 (月)



約160人

\\ みんなでもりあがろう // 東京2025デフリンピック応援イベント！ in 豊洲

■ 2024年10月27日 (日)



約1300人

福岡市、青森市、横浜市、徳島市、富士見市の5カ所で約2,700名を超える市民の参加

全日本ろうあ連盟 来年度の気運醸成『全国キャラバン活動(案)』

東京2025デフリンピックの大会ビジョン

デフスポーツの魅力や
価値を伝え、
人々や社会とつなぐ

世界に、
そして未来に
つながる大会へ

“誰もが個性を活かし
力を発揮できる” 共生社会の実現



目的

- 東京2025大会の認知度向上および気運醸成
- 手話言語やろう者の文化の発信・理解促進
- 多様性と共生社会(SDGs)の推進
- 全国からの日本代表選手や各国選手への応援を届ける

テーマ

**みんなの思いよ繋がれ！
デフリンピックが繋ぐ心の輪**

キャラバンカーで47都道府県を訪問、各地でイベントを実施する

○ 実施期間(予定)

2025年6月～10月まで(約5か月程度)

埼玉県の取り組み「デフリンピック気運醸成埼玉プロジェクトの設置」

国や埼玉県は「共生社会」と提唱している

- ✓ 確かに障害者にとって生活しやすい環境になってきた。
- ✓ 障害者も外に出るようになってきた。
- ✓ きこえない・きこえにくい人も行事などに参加するようになってきた。

しかし、現実には

- ✓ 手話言語で話し合える場が限られている。
- ✓ 同じ障害者でも、言語の違いにより、また別の障害者と感じる。
- ✓ きこえない・きこえにくい人への理解が浸透していない。

私たちの生活や環境の変化がない。
「共生社会」って何だろう？

東京2025デフリンピックのコンセプトの1つ

きこえない人・きこえる人が互いの違いを認め、
尊重しあい、誰もが個性を活かし、力を発揮できる
共生社会の実現

きこえない人・きこえにくい人の共生社会の実現

課題

- ✓ きこえない・きこえにくい人のことを知らない
- ✓ 合理的配慮の方法がわからない
- ✓ 手話言語があることを知らない
- ✓ デフリンピックの認知度が低い

東京2025に向けて

- ✓ 全ての市町村で「**手話言語条例**」を制定
- ✓ 「埼玉県手話言語条例」を通して、デフリンピック支援
- ✓ デフリンピックの認知度を向上
- ✓ 全ての市町村でデフリンピックを知って
あたり前
- ✓ オリパラと**同等な位置・扱い**

相乗効果

デフリンピック気運醸成埼玉プロジェクトの立上げ

2023年8月より開始

目的

東京2025デフリンピック開催に伴い、埼玉県内においてデフリンピックやデフスポーツへの理解啓発、デフアスリートへの支援を向上させるとともに、きこえない人・きこえにくい人が取り組む共生社会の実現につなぐことが目的

構成団体

埼玉県聴覚障害者協会	6人
さいたま市聴覚障害者協会	1人
埼玉県手話通訳問題研究会	2人
埼玉県手話サークル連絡協議会	2人
埼玉県	1人
富士見市	1人
三芳町	2人

埼玉県の取り組み「デフリンピック気運醸成埼玉プロジェクトの活動」

主な活動



- ① 啓発パネル(埼玉版)の貸出
- ② 啓発チラシ、ポスターの制作・配布
- ③ イベント(地域含む)へのブース出展
- ④ イベント(地域含む)でのチラシ配布
- ⑤ 手話言語の国際デーと共催
- ⑥ プロジェクト委員の誘発
- ⑦ 県議員への理解啓発
- ⑧ デフリンピックCM(さいたま市)の制作
- ⑨ 応援手話言語メッセージリレーの実施
- ⑩ みんなのデフリンピック上映活動
- ⑪ デフスポーツ・サポーターの拡大

デフリンピックだけでなく、きこえない人・きこえにくい人、手話言語への理解を求めている

レガシー

- ✓ デフリンピックを知る ⇒ きこえない人への理解向上
- ✓ 競技環境の向上 ⇒ 施設バリアフリーのきっかけ
- ✓ 手話言語を知る ⇒ 手話言語のある共生社会

成果・効果

- 啓発パネル 56か所で展示
- デフリンピックのことを知らなかった人が多数。興味を持つ人が多数。
- プロジェクト委員に、埼玉県、富士見市、三芳町が加入。
- 埼玉県オリンピック・パラリンピック・デフリンピック議員連盟に改称
- 知事、議長、市町村長への表敬訪問の回数が増える
- 県が、スタートランプの購入
- 全ての市町村ホームページでデフリンピック紹介ページ開設
- 市長村長と会うきっかけ
- 市長村長が手話言語を使用
- 手話言語条例の制定・準備開始
- 行政職員が、手話言語に興味、デフリンピックを知るきっかけ

千葉県の取り組み「デフリンピック気運醸成ちば委員会の取り組み」

2025デフリンピック東京気運醸成 ちば委員会 組織図

(会員事業)
活動運営委員会

- ・活動運営委員会事務局
(千葉県聴覚障害者協会)

本部委員会

- ・三団体連絡会常任委員
- ・千葉聴覚障害者センター
(計12名)

拡大委員会
(三団体連絡
会)

- ・活動運営委員会常任委員
- ・千通研
- ・県サ連 (計23名)

デフリンピック気運醸成 へのイベントづくり

- クリスマスイベント、七夕イベント、新春イベントなど
- 行政職員による啓発講演を取り入れたイベント
- バラエティに富んだ啓発企画で参加者の感動的口コミから広がりへ

千葉県が取り組んできた福祉施策の足跡は…

- 全国初の障害者差別禁止条例(千葉県障害者条例)制定
- 全国初の障害者情報コミュニケーションガイドラインの制定

千葉県との連携で実現した福祉施策は…

- 全国初の全国障害者スポーツ大会開・閉会式でのろう者の手話「君が代」
- 民設民営での情報提供施設施設(視・聴)
- 市町村の責務も取り入れた千葉県手話言語等条例の制定
- 手話言語啓発用の学校ドラマ映像の制作 など

当県との連携で取り組む方向性と検討

- 当県は成田国際空港を擁することから、日本・千葉・成田における文化インバウンドを念頭にしたおもてなしの企画推進
- 千葉県障がい者スポーツ協会も気運醸成への連携へ…

県との連携事業で気運醸成へ

- おもてなし国際手話養成講座(予定)
- 小・中学生を対象にした手話言語文化講座(予定)

千葉県の取り組み「デフリンピック気運醸成ちば委員会の取り組み②」

豊富な啓発文化プログラムの提案・提供

- サイレントゲーム、手話ゲーム
- ろう者・手話の文化社会講座
- ろう者・手話の芸術文化講座

気運醸成へのイベントづくり

- クリスマスイベント、七夕イベント、新春イベントなど
- 行政職員による啓発講演を取り入れたイベント
- バラエティに富んだ啓発企画で参加者の感動的ロコミから広がりへ

気運醸成や啓発の推進を狙いにした自主活動の展開

- ろう重複障害者(就労継続B型)の制作したデフリンピック開催国の歴史文化イラストのカレンダーによる啓発活動
- アルファベット指文字によるネックストラップ(当協会後援会)を制作し、おもてなし国際手話活動の一環としての啓発活動

県との連携事業で気運醸成へ

- おもてなし国際手話養成講座(予定)
- 小・中学生を対象にした手話文化講座(予定)

最初のデフリンピックは手話コミュニケーションを中心に自立自助から始めました。
自立自助を踏まえた上での共生社会づくりの財産を後世に残していきたいと思います。

レガシー

